

消毒効果長持ち 科技賞

「感染防止に役立てて」

消毒効果を長持ちさせる成分を開発した広島大の二川浩樹教授（口腔生物学）が8日、文部科学省の科学技術賞の受賞者に決まった。二川さんは会見で「多くの細菌やウイルスに効果がある。感染や食中毒の予防に役立ててほしい」と話した。今後は歯周病など口腔ケアに関する商品の開発も急ぐという。

広島大・二川教授開発

二川さんの受賞が決まったのは科学技術賞の開発部門。文科省によると、「社会経済、国民生活の発展向上などに寄与し、実際に活用されている画期的な研究開発や発明」に贈られる。同日、全国で計29グループの受賞が発表された。

歯科医の二川さんは「歯周病の予防に使える製品をつくりたい」との思いで、2000年から研究を始めた。化学薬品製造会社「マナック」（福山市）との共同開発で08年に、消毒成分を「シラン化合物」と合成

させれば、消毒成分を机やタオル、人間の手などに長期間つなぎとめられることを発見した。

新成分は英文での頭文字「Etak」と名付けた。実験では、一般的な消毒剤を吹きつけた机は、液体が乾くと表面に細菌やウイルスが付着したのに対し、Etakを配合した消毒剤は、1週間後も効果があった。黄色ブドウ球菌や腸管出血性大腸菌O157、インフルエンザウイルス、ノロウイルスなど多くの細菌や

Etak 協議会

Etak®



「Etak」は消毒剤のほか白衣やポーチなど様々な製品に使われている＝いずれも広島市南区霞1丁目

ウイルスで効果があったという。皮膚への刺激がなく、体内に入っても害がないため、まな板などの消毒にも使える。

二川さんは受賞の決定を受けて、「うれしい一言」と笑顔を見せた。歯学部副学部長も務めており、

学生たちには、「歯科だけにとられず自然科学全体を見ながら研究してほしい」とエールを送った。

Etakは現在、業務用の消毒剤のほか、白衣やタオル、マスク用の防菌スプレーなど約50の製品に使われている。

（南宏美）



「Etak」の開発の経緯を説明する広島大の二川浩樹教授